

武蔵村山市立小・中学校

学校図書館だより

— 本で育つ 本でつなぐ —

発行 武蔵村山市教育委員会

編集 武蔵村山市学校図書館活用推進プロジェクト学校図書館だより編集委員会



言葉の力は

大人が育てる

武蔵村山市教育委員会

教育長 持田 浩志



平成 25 年

度、武蔵村山市
の全ての小・中
学校で、小中連
携の視点から、

中学校区を単位に「言語能力の向上」
を目指した研究を進めてきました。

その集大成として作成を進めてきた
一般図書が刊行され、今般、書店等
でも販売されることとなりました。

子供の言葉の力を育むために、最
も大きな影響を与えるのは、子供が
どのような言語環境に身を置してい
るかということだと感じます。担任
の教師が、自分の学級の子供たちの
話し方が、自分に似てくるという経
験も、少なくないはずで。

言葉遣いのみならず、読書の習慣
も、子供時代に置かれていた環境が
大きいと考えます。一つの本を読み、
どんなことを感じたのか、そんなこ
とを話し合う、貴重な時間を過ごし
てみてはいかがでしょうか。

先人から学ぶ 偉人の伝記から学ぶ

平成25年度「武蔵村山市教育のつ
どい」のテーマは、「先人から学ぶ
— 未来を担う ぼくたち わたした
ち —」でした。本会の開催に先立ち、
全ての小・中学校で、読書等を通じ
て、日本人の偉人の生き方から学ん
だことや考えたことについて、作文
を書きました。発表した子供たちは
もちろん、多くの子供たちが、先人
の生き方に憧れたり、共感したりし
ながら、自分がどう生きたいのかに
ついて立派に述べていました。

今回、小・中学生が選んだ日本人
の偉人は全部で147人、その中でも、
多くの子供たちが選んだ偉人ベスト
5は、下の表のとおりでした。この
表を見て、「自分もこれを読んでみよ
う。」と思ったり、「親子で一緒に読
んでみようか。」と話したりしてい
ただけるとよいのではないですか。
平成32年には、この東京で、56年
ぶりのオリンピック・パラリンピッ
クが開催されることになりました。

本市の子供たちが、このような伝記
を読むことを通して、我が国や郷土
を愛するとともに、日本人であるこ
とに誇りをもって、国際社会の中で
活躍していくことを願っています。

小・中学生が選んだ伝記（偉人）ベスト5

【平成25年度「武蔵村山市教育のつどい」意見発表文に向けて】

	小学生		中学生		総合	
1	野口 英世	66人	野口 英世	23人	野口 英世	89人
2	松江 美季	38人	織田 信長	20人	織田 信長	53人
3	織田 信長	33人	イチロ -	13人	坂本 竜馬	40人
4	坂本 竜馬	31人	徳川 家康	12人	福沢 諭吉	39人
5	伊能 忠敬 福沢 諭吉	28人	福沢 諭吉	11人	松江 美季	38人

「この本、おもしろかった！」

子供たちが本から受ける感動は、一人一人違います。そこに、読書の良さがあ
るのです。だからこそ、わたしたちは、
子供たちが興味・関心を抱ける本を、学
校図書館にたくさん揃えてあげることが
必要だと考えています。

子供たちが、読書を通して思ったり考
えたりしたことは、自分の生きるための
素材となり、社会に出て生きていく一人
の人間としての幅を広げていきます。つ
まり、読書を繰り返すことによって、言
葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力
を豊かにすることにつながるのです。そ
して、その本の良さを文に書いたり、話
したりする（口で）伝えようとすること
で、さらに表現力に磨きがかかるのです。
前号に引き続き、今回のNO.7でも
本市の小・中学生の読書感想を紹介しま
す。興味をもったら、ぜひ、その本を読
んでみてください。

小中学生の 読書感想から

「図書館戦争」

村山学園

8年

はせがわかほ
長谷川果穂

「図書館戦争」…この題名を見て、み
なさんは何を感じますか。私は不思議
に思いました。図書館といえば静かな
落ち着くところで、それと「戦争」が
結び付かなくなったからです。

この本は、近い未来の物語です。図
書館は本を「守る」ために戦う、それ
が当たり前になってしまった時代です。
なぜそんなことをしなくてはならない
のでしょうか。それは、本を「奪う」
ために良化隊という人たちがやってく
れるからです。良化隊は、みんなが読
みたいと思っている本を「社会にふさ
わしくないから」という理由で取り上
げていきます。

主人公は、笠原という女子図書隊員
です。笠原は高校時代、読みたい本を
良化隊に奪われそうになったことがあ
ります。そのとき、ある図書隊員が本

を取り返してくれました。その隊員に
あこがれて、図書隊員に入ります。

まっすぐなゆえに危なっかしい性
格ですが、私はそんな笠原を支える図
書隊のチームワークに惹かれました。

会話の中からもお互いを信頼してい
るのが伝わってきます。仲間がいること
が、良化隊に立ち向かってゆく力にな
るでしょう。まるで家族のようで温か
くて、いいなあと思いました。

私は「図書館戦争」を読みながら、
笠原たちと一緒にわくわくしたり、ど
きどきしたりしました。こんなふう
に、本を読んでいるときは、誰でもその世
界の主人公になれるのです。人生は一
度ですが、本の中では、いくつもの生
き方を知ることができる…それが読書
の楽しいところですね。みなさんも「た
めに」という気持ちで、いろいろな
本を手にとってみてはいかがでしょう
か？そうすればいつか「これだ！」と
思える一冊に出会え
るでしょう。そして、

それは思いかけず、
あなたの毎日を楽し
くするものかもしれ
ません。



セロ弾きのゴーシュ

第二小学校 6年

すずき

だいご

ぼくがおもしろいと思う本は、「セ
ロ弾きのゴーシュ」です。この本はセ
ロを弾くのが下手なゴーシュが動物た
ちのおかげでセロを弾くのがうまくな
っていくお話です。

ぼくが一番心に残っている言葉は、
楽長がゴーシュに言った「ゴーシュ君、
よかったぞお。あんな曲だけれども、
ここではかなり本気になって聞いてた
ぞ。一週間か十日の間にずいぶん上
げたなあ。十日前と比べたらまるで赤
ん坊と兵隊だ。やろうと思えばいつで
もやれたんじゃないか、君。」という言
葉です。この言葉は、セロを弾くのが
最初は下手だったゴーシュが、毎晩、
毎晩動物たちと練習をしていくうちに
一段とうまくなったことを楽長に認め
られる場面です。

だからぼくは、できないことがあつ
ても毎回コツコツとやっていけばいつ
かは必ずできる、だからあきらめずに
頑張ろうと思えました。「セロ弾きのゴ
ーシュ」おもしろいので、みなさんも
読んでみてください。

真夜中のパン屋さん
第三中学校 2年 高橋さくら

私が紹介する本は、大沼紀子・著「真夜中のパン屋さん」というシリーズの小説です。この本は、人間の親切さや個性の存在などを改めて知ることができ、とても温かい物語です。

この話は、女子高校生の希実がパン屋に居候することになり、そこからいろいろな人間に出会って多くの出来事に巻き込まれていきます。そのパン屋は不思議な店で、真夜中だけ営業するのです。私はその内容を読んで、「真夜中に営業して成り立つのか」と疑問に感じました。

そして、この物語は日常的な面白さと考えさせられる部分が上手い具合に折り込まれています。くだらないことを言ったり、つつこんだりしているのかと思えば、人生観などについて考えさせられたりもします。私はそこを読むたびに、笑いをこらえそうになります。そして、人それぞれの価値観が書いてある部分を読むと、「そんな考え方もあるのか」と少し納得させられたりもします。

私は苦しくなると、一巻目、午前0

時のレシピの中の「焼成」と三巻目、午前2時の転校生の中の「成形&第二次発酵」を読みたくくなります。笑いあり、涙ありだからというのほもちろんですが、その登場人物にもいろいろ過去があつて、それなりに大変なところがありますが、周りの人や親子の愛を感じられるからです。その文を読み、「苦しいのは私だけではない」と思えるからです。

そして、明日も頑張ろうと思え、希望を持てます。そして、最後には必ず心が温かい気持ちになり、明るい気持ちになれる物語です。ぜひ、読んでみてください。



あきらめない心
第九小学校 3年 持田寛太

ぼくは、「明日はもっと強く、美しく」という本を読みました。この本にはロンドンオリンピック男子体操でキャプテンを務めた田中和仁選手が出てきます。ぼくは体操を習っていて、テレビでみた田中選手のことを知りたいと思いい、読んでみようと思いました。

この本を読んで一番心に残ったところは和仁選手が今まで負けたことになかった弟の佑典選手に負けてしまったところでした。すごく悔しい思いをしたけれど、負けた悔しさを持ち前の冷静さと前向きに考える力で前に進むエネルギーにかえたことがすごいなあと思いました。

ぼくは、この本から諦めないで最後までがんばること、努力すればどんなこともいつかできるようになることを学びました。これからのどんな壁にぶち当たっても自分を信じて最後まで諦めないでがんばろうと思います。そして、和仁選手みたいにオリンピックに出て金メダルをとることが夢です。夢を実現できるようにどんなことにも一生懸命に挑戦していきたいと思います。

一度着てみたいな星のドレス
雷塚小学校 4年 中村百花

私は、あんびるやすこさんの「いちばん星のドレス」という本が、今まで読んだ本の中で一番印象に残りました。この本を読んだ中で私が好きな三つの場面を紹介します。

一つめは、世界で一番美しい女王を決めるコンテストに出場するクリスタという雪の魔女のために、シルク、ナナ、コットンの三人がドレスを作ってあげる場面です。

二つめは、クリスタが、三人が心をこめて作ったいちばん星のドレスを見てほえみ、三人とも笑顔になる場面です。

そして三つめは、そのドレスを着たクリスタが優勝する場面です。

私はこの本を読んで、どうにかクリスタを優勝させてあげたいという思いやりを感じたり、優勝した時に私も一緒にうれしくなったりしました。もし、この本に出てくるようないちばん星のドレスがあつたら、とてもうれしいし、見た人はみんな喜ぶと思います。そして、こんなすてきなドレスを私も着てみたいと思いました。

「電池が切れるまで」を読んで
第十小学校 4年 渡辺 わたなべ
樹 いつき

「博士の愛した数式」
第五中学校 1年 のむらあやか
野々村綾香

がんになっても笑顔とやさしい心

をわすれなかった、ゆきなちゃんと仲間たちの入院生活の悲しいお話です。

この本の中に「命」という詩が出てきます。ゆきなちゃんはこの詩を書いて四か月後に十一さいでなくなりました。

わたしも二年生の時、九日間入院しました。その時は軽い病気で、楽しくてまた入院したいと思ったけれど、この本を読んで、重い病氣の人に申しわけない気持ちになりました。

ゆきなちゃんは理科の実験で、自分たちの命が電池のようだと気づきました。でも命は交かんでできません。

「自分の命も友だちの命も大事にしよう！病氣でもがんばろう！」

ゆきなちゃんは、この気持ちをわすれず、「命」の詩を書いたのです。

わたしは、この本から命の大切さを教わりました。病氣がなく健康に過ごすのはとても幸せだと思います。今まで、重い病氣の人の気持ちを全く考えていなかったので、ゆきなちゃんを見習って、これからは自分の命も家族や友達の命も大切にしたいと思います。

「僕の記憶は八十分しかもたない」

私は、このフレーズを見たときに、一体どんな話なんだろうかと思いい、この本を選びました。

この話は、記憶力を失った博士の所から始まります。博士は、毎回「私」

の事を「新しい家政婦」と思ひこみ話かけます。初めは動揺していた「私」

も、だんだん慣れてきて、「私」の息子のルートも、博士と仲良くなっています。

そして、博士には二つの特技があります。

一つめは、すぐに一番星を見つけれることです。

まだ夕方には早過ぎる時間に、急に声を出して、「一番星だ。」とつぶやきます。料理のおかずがいくつつあるかも

分からない博士が、なぜ一番星だけをすぐに見つけられるのかとても不思議です。

二つめは、言葉を瞬時に逆さまにすることです。ルートが国語の宿題で回

文を作る時に、博士がすぐに回文にし

て見せたのです。驚くルートに、博士は、「イメージが大切だ。」

と、少しも得意気ではなく、澄ました顔で言いました。

このように、博士は特技をもっている。私も、博士のように謙虚な人になりたいです。

そして、博士は数学が大好きで、数学の事はかなり考えています。博士の教える数学は、より簡単に、便利に求められる方法なので、読んでいて、とてもおもしろかったです。

私は、数学は勉強に使うものだと思っていました。博士がしているように、身近なことに、おもしろく使える数学があると知って、驚きました。

数学があまり好きでない人も、この本を読んで、少しでも楽しんでもらえたら嬉しいです。

ぜひ、みなさんも読んでみてください。

本を読ませるための 手だて

今年度は、学校司書連絡会と武蔵村山市小学校教育研究会図書館部との交流を3回計画しました。一回目は、「教科に生かせる学校図書館の利用」について話し合い、二・三回目は、学校図書館活用支援研究室主宰・河本利廣先生をお招きした「ブックトーク」の授業と協議会に参加しました。

この会で学校司書が得たものは、「ブックトークに関する教材を準備し、より学習者に関心・興味を抱かせるかを創意工夫すること」や「日常の図書活動に、児童・生徒の考え方を踏まえた実践活動をする事」等について学ぶことができました。

【編集委員】

教育センター 研修室長	小川 隆志
第三小学校 学校司書	長谷川雅美
第七小学校 学校司書	稲葉 智子
第十小学校 学校司書	木村 清子
第三中学校 学校司書	小久保弘実
第五中学校 学校司書	山口 淳子

